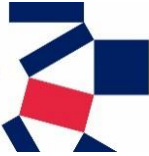




明化の教育

11月号 (第450号)
平成29年10月31日
文京区立明化小学校
校長 溝畑 直樹

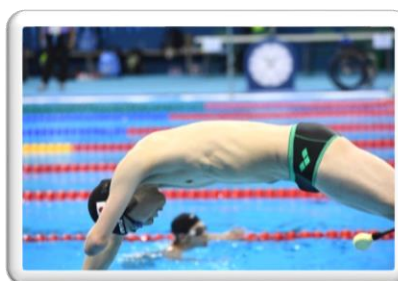
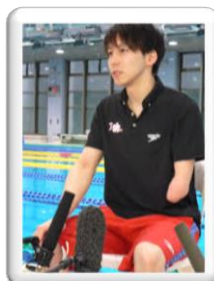
教育プログラム
[よらい、ドン!]



オリンピック・パラリンピック教育 山田 拓朗選手から学んだこと

副校長 齋藤 道子

去る10月19日、本校では、オリンピック・パラリンピック教育の一つとして、2016年リオデジャネイロ・パラリンピックS9クラス男子50m自由形の銅メダリストの山田拓朗選手をお招きして全校児童・保護者・地域の方々を対象に講演会を開きました。また、講演会後は、総合的な学習の時間で「共に生きる」をテーマに探究的な取組をしている4年生の学級にお越しいただき、子供たちと交流し、大変に貴重なお話をいただくことができましたのでご紹介します。



山田選手は、1991年4月12日に兵庫県に生まれました。左腕が肘下から無い体でしたが、鉄棒でも、縄跳びでも、マット運動でもなんでもしました。しかし、水が大嫌いで大泣きするため、母親が3歳の時にスイミングスクールに通わせました。初めは嫌がりましたが、やがて泳ぐのが大好きになって毎日練習に通いました。そんなある日、パラリンピック競泳で金メダルをとった選手のことを知り、オリンピック出場が自分の夢となりました。2004年アテネ・オリンピックへの出場は叶いませんでしたが、パラリンピックに史上最年少の13歳で出場しました。しかし、世界の強豪の壁は厚く予選落ちとなり、2008年の北京、そして、2012年のロンドンでは、自己ベストを出して4位になったもののメダルには届きませんでした。その後、筑波大学に進学し、さらに厳しい練習に耐え、2016年のリオデジャネイロでは、26秒00の自己ベストでようやく念願の銅メダルを獲得しました。現在、山田選手は25歳になり、2020年の東京パラリンピックを目指して日々練習に取り組んでいます。講演の最後に山田選手は、子供たちにこんなエールを送ってくださいました。

目標を達成するためには、

長く、しつこく、がまん強く努力し続けることが一番の近道である！！

そして、続けるためには、自分ができないことや、新しいことにチャレンジすることだ！！

そして、講演会後には、各教室で子供たち一人一人に大切な大切な銅メダルを触らせてくださいました。500グラムの重み、振ると鳴る音色、裏に刻まれた点字などに実際に触れ、一人一人がメダルそのものの重さに加えて、そこに秘められた山田選手の思いや、それを支えた人々の思いなども感じ取ることができました。本校は、今、オリンピック・パラリンピック教育を積極的に推進しています。夢に向かって自分自身に打ち勝ちながら懸命に夢の実現を図っている選手たちの姿から、子供も、大人も共に人としての素晴らしいよりよい「生き方」や「在り方」を学びたいと思います。